



令和2年度 病院事業会計決算（見込）の概況

○ 決算見込みのポイント

◎病院事業全体（市立3病院計）の経常損益は、入院・外来収益の減少などにより16億3,582万円の経常損失となりました。また、病院事業全体の純損益は、新型コロナウイルス感染症に係る補助金などにより32億6,529万円の純利益となりました。

市立3病院の経営成績（税抜き）

（単位：円）

科目	川崎病院	井田病院	多摩病院※	病院事業合計
総収益	23,277,321,953	11,638,836,302	1,944,802,035	36,860,960,290
医業収益	16,567,662,391	7,749,326,383	984,501,397	25,301,490,171
医業外収益	3,388,307,478	2,112,688,986	928,145,493	6,429,141,957
特別利益	3,321,352,084	1,776,820,933	32,155,145	5,130,328,162
総費用	20,771,767,561	11,065,388,841	1,758,518,337	33,595,674,739
医業費用	19,603,089,643	10,416,463,119	1,460,538,298	31,480,091,060
医業外費用	992,843,713	595,683,778	297,832,239	1,886,359,730
特別損失	175,834,205	53,241,944	147,800	229,223,949
経常損益	△ 639,963,487	△ 1,150,131,528	154,276,353	△ 1,635,818,662
純損益	2,505,554,392	573,447,461	186,283,698	3,265,285,551

※多摩病院は利用料金制を採用しているため、多摩病院の診療収益は市病院事業会計の決算に含まれておりません。

○ 患者状況・診療収益状況

◎市立3病院とも、新型コロナウイルス感染症に対応するため不急の手術等の制限や病床による稼働病床の減少により、入院及び外来患者延人数が減少しました。

	入院患者延人数	外来患者延人数
川崎病院	155,190人（20,704人減）	266,242人（46,455人減）
井田病院	92,578人（19,902人減）	142,576人（18,448人減）
多摩病院	85,797人（28,408人減）	186,755人（28,728人減）

	入院患者実人数	1人平均入院日数
川崎病院	12,375人（1,667人減）	12.5日（増減なし）
井田病院	5,366人（977人減）	17.3日（0.4日減）
多摩病院	7,306人（2,563人減）	11.7日（0.1日増）

	入院収益（税抜き）	外来収益（税抜き）
川崎病院	108億3,297万円（5億8,209万円減）	43億2,807万円（4億5,444万円減）
井田病院	45億1,468万円（7億288万円減）	27億1,043万円（1億2,782万円減）
多摩病院	53億6,430万円（10億2,616万円減）	26億5,089万円（2億8,191万円減）

○ 業務状況

市立3病院では、市の基幹病院又は地域の中核病院として、公共の福祉の増進と経済性の発揮を基本としながら、高度・特殊・急性期医療や救急医療等を継続的かつ安定的に提供するとともに、災害、研修教育等の対応を含めた医療行政施策を推進し、また地域医療機関との連携を進めるなど、本市の医療水準の向上に寄与できるよう取り組んでいます。

このような中、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の市中感染等の広がりを受け、神奈川県が構築した緊急医療体制である「神奈川モデル」の高度医療機関及び重点医療機関として、年度当初から感染症患者の入院受入れを積極的に行うとともに、感染症患者の入院調整等を行う調整本部への人員派遣や、市内の福祉施設・事業所に対する感染症防止対策の指導・研修を主眼とした出前講座を実施するなど、様々な面で新型コロナウイルス感染症に対応してまいりました。

◎川崎病院においては、小児・成人・高齢者・妊産婦等への一般医療、精神科救急医療を提供するとともに、白血病や悪性リンパ腫などの血液疾患患者の治療のため、高性能な空調設備等を備えた無菌室を5室整備し、神奈川県がん診療連携指定病院として、がん治療機能の強化を図りました。また「神奈川モデル」の高度医療機関及び重点医療機関として、第二種感染症病棟や救命救急病棟を、新型コロナウイルス感染症患者の受入専用病棟に転用するなど、段階的に病床を整備・拡充しながら、重症患者及び中等症患者を受け入れました。

◎井田病院においては、増大するがん等の成人疾患医療、救急医療、緩和ケア医療などの一般診療を提供するとともに、地域の在宅療養患者の緊急時の受入れを行う在宅療養後方支援病院として、地域の在宅医をサポートする取組を進めました。井田病院再編整備事業では、広場整備工事を実施しました。また「神奈川モデル」の重点医療機関として、結核病棟を新型コロナウイルス感染症患者の受入専用病棟に転用するなど、段階的に病床を整備・拡充しながら中等症患者を受け入れました。

◎多摩病院においては、小児救急を含めた救急医療を中心に、高度・特殊・急性期医療、アレルギー疾患医療等の一般診療を提供しました。また「神奈川モデル」の重点医療機関として、一般病棟の一部を新型コロナウイルス感染症患者の受入専用病棟に転用するなど、段階的に病床を整備・拡充しながら中等症患者を受け入れました。

○ 主な建設改良

◎川崎病院では、14階病棟に無菌室を5室整備するため改修工事を実施したほか、自動火災報知設備の改修を進めています。井田病院では、ケアセンターの外壁塗装及び屋上防水改修工事を実施しました。

◎医療器械については、川崎病院ではX線CT装置の更新等を行いました。井田病院では内視鏡ビデオシステムの更新等を行いました。

【問合せ先】 川崎市 病院局 経営企画室 経理担当 市川
電話 044-200-3855

令和2年度 病院事業会計決算（見込）のポイント（税抜き）

<病院事業全体>

			令和2年度決算 (見込)	令和元年度決算	増 △減額	増 △減率	備 考
1 収益的収入			368億6,100万円	337億 500万円	31億5,600万円	9.4%	
主な 収入	入院収益	153億4,800万円	166億3,300万円	△12億8,500万円	△7.7%	患者延人数の減少による川崎病院、井田病院の減	
	外来収益	70億3,900万円	76億2,100万円	△5億8,200万円	△7.6%	患者延人数の減少による川崎病院、井田病院の減	
	他会計繰入金	60億 300万円	60億5,300万円	△5,000万円	△0.8%		
2 収益的支出			335億9,600万円	332億6,000万円	3億3,600万円	1.0%	
主な 支出	給与費	159億2,100万円	149億 700万円	10億1,400万円	6.8%		
3 経常損益			△16億3,600万円	3,700万円	△16億7,300万円	△4,521.6%	
内訳	川崎病院	△6億4,000万円	2億6,400万円	△9億 400万円	△342.4%		
	井田病院	△11億5,000万円	△3億6,600万円	△7億8,400万円	△214.2%		
	多摩病院	1億5,400万円	1億3,900万円	1,500万円	10.8%		
4 純損益			32億6,500万円	4億4,500万円	28億2,000万円	633.7%	
内訳	川崎病院	25億 600万円	7億 800万円	17億9,800万円	254.0%		
	井田病院	5億7,300万円	△4億2,500万円	9億9,800万円	234.8%		
	多摩病院	1億8,600万円	1億6,200万円	2,400万円	14.8%		

(注) 増△減率が正の場合、収支は改善している。負の場合、収支は悪化している。

5 資金不足比率	— (資金不足となっていない)	— (資金不足となっていない)			参考：財政健全化法における経営健全化基準 20%
----------	--------------------	--------------------	--	--	--------------------------

※ 金額については百万円未満を四捨五入（一部、端数調整有り）

※ 増減率については小数点第2位を四捨五入

